

世界と比べて見えてくる

日本のジェンダーギャップ

国ごとの男女平等達成度の成績表とも言える「グローバル・ジェンダーギャップ指数」。
世界と比較して見えてくる、日本の男女格差課題をピックアップしました。

2024 グローバル・ジェンダーギャップ指数

国ごとの『男女平等の達成度』を[経済][教育][健康][政治]の4分野で分析した世界ランキング。

G7(先進7カ国) 最下位…

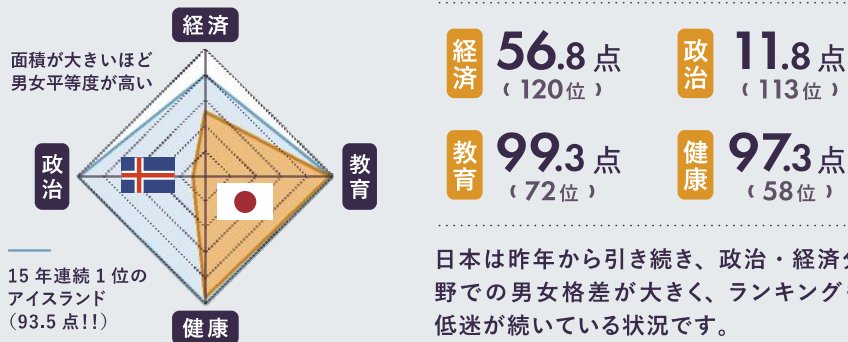
118位 / 146カ国



男女共同参画局 WEB サイト内 ジェンダー・ギャップ指数

男女平等な状態を100点とすると…

総合スコア **66.3点**

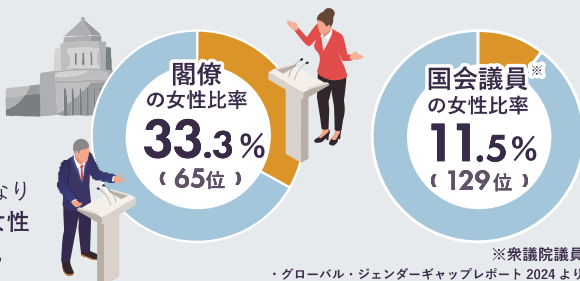


日本は昨年から引き続き、政治・経済分野での男女格差が大きく、ランキングも低迷が続いている状況です。

政治分野

「国を動かすリーダー」の女性比率が低い

2023年に女性閣僚が5人となりスコアをやや上げたものの、女性議員比率は約1割に留まります。



・グローバル・ジェンダーギャップレポート 2024 より

経済分野

「賃金差」と「無償労働時間」のアンバランスが目立つ

諸外国と比較して、日本は「有償労働時間」が男性に、「無償労働時間」が女性に偏る傾向が強く見られます。また、同一労働における男女の賃金格差も大きく、理由の一つとして「性別役割の固定観念(ジェンダーバイアス)」の影響が考えられます。



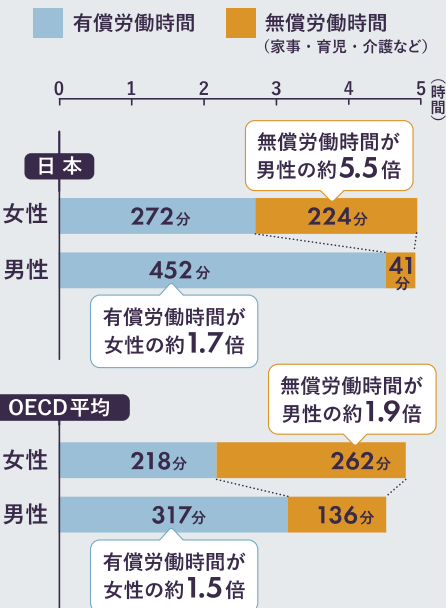
・グローバル・ジェンダーギャップレポート 2024 より
・男性の給与水準を100とした時の女性の給与水準

「会社を動かすリーダー」の女性比率が低い

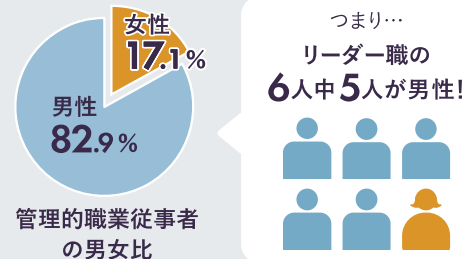
女性の管理職比率も世界的にみて低水準で、スコア130位と大きく遅れをとっています。つまり、現状は指導的役割の6人中5人が男性、ということに。

・グローバル・ジェンダーギャップレポート 2024 より

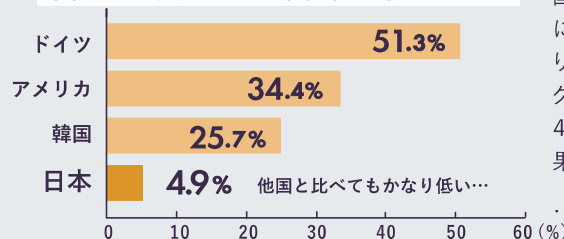
1日あたりの生活時間(週全体平均)



・内閣府男女共同参画局より。OECD(経済協力開発機構)が2020年にまとめた生活時間の国際比較データ(15~64歳の男女を対象)。
・OECDの加盟国は日本、欧州諸国、米国など38カ国の先進諸国。



国家公務員における中級管理職の女性割合



国会議員だけでなく、国家公務員における管理職の女性割合もかなり低く、中級管理職で4.9%(左グラフ)。上級管理職はさらに低く4.2%。他国と比較すると顕著な結果になっています。

・女性活躍・男女共同参画の現状と課題より